

〒384-0006 小諸市与良町 6-5-5
TEL.0267-31-0250 (代)
FAX.0267-31-0140
http://www.pref.nagano.lg.jp/
toshinkyō/index.html
平成 30 年(2018 年)9 月 26 日(水) 発行 No.5

東信教育事務所だより「響」

連載「響く声」

Enjoy English Together!

—No.5 の内容—

- ◆連載「響く声」
「小学校英語中核教員研修」
「中学校英語教員指導力向上研修」より
- ◆連載「特別の教科 道徳」
～こんな実践してみたい～
- ◆連載「初任研」
初任研を授業に生かす
- ◆舎窓から
- ◆県歌「信濃の国」
制定 50 周年③
- ◆生涯教育課より

8月2、3日に、「小学校英語中核教員研修」、「中学校英語教員指導力向上研修」を行いました。研修内容を授業にどのように生かすことができるか、という視点で、受講された先生方の声をお届けします。

小学校英語中核教員研修

英語の表現に慣れ親しむために歌を取り上げたセッションでは、先生方が教師役、児童役になって演習を行いました。



児童が楽しんで内容を推測するために、もっと工夫できることはないかな？



“Where are you?”の部分はジェスチャーがあるほうがいいのかも。

“Here I am.”のところは「ここだよ」っていう近くを指さす身振りがあるといいね。

みなさん、英語の授業づくりを楽しんでいるね！



カルプくん

中学校英語教員指導力向上研修

インフォメーションギャップのある話す活動を扱ったセッションでは、生徒の興味を高めるための導入の工夫や身近な題材を扱うことについて演習が行われました。



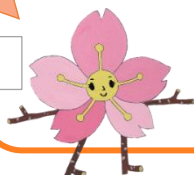
中学校の先生方は All English で研修を行ったんだって。さすがだね！！

生徒が主体的に話すためにどんな題材がいいでしょうか？



“If you go to Kyoto again”という設定にしたなら、見学先や買いたいものについて主体的に話せるかな。

キルシエさん



同じ経験をしているし、理由や好みについて聞くことが自然にできていいかも。

道徳で「主体的・対話的で深い学び」をめざす



主体的に学ぶ児童の姿を引き出す

小学校2年 ～しんせつ～
「くまくんの たからもの」
(新しいどうとく② 東京書籍)

特集
「特別の
教科 道徳」
こんな実践
してみたい
～S小の実践～



担任のH先生は教科書の題材を、板書に挿絵や吹き出し、お話の場面や登場人物の持ち物を**具体物**として、子どもたちに示しました。子どもたちは先生が語り、示す具体物にワクワクしながら、お話に引き込まれていきました。

二人の先生が
子どもたちの
意欲を引き出
しているわ。



くまくんの気持ち
を考えるんだな!



問題意識をもつ



今日は何を
するのかな?



自分とのかかわりで



個の学びから
友とのかかわりへ

「役割演技」
をすると、登
場人物の気持
ちになりけれ
るね。



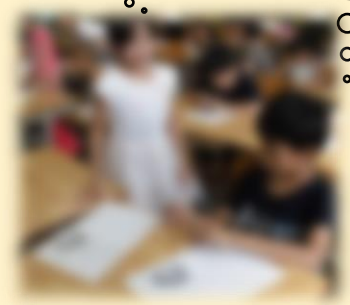
自分と向き
合って考え
ているね。



【終末の一工夫】
自分ごとにする
内容項目「親切・思
いやり」に迫るクラ
スの子どもたちの日
常の姿を紹介し、互
いのよさを認め合う
終末の工夫も。

どう思う?

ぼくは、こう
思ったよ。



連載
「初任者研修」
もっと授業力を
高めたい！

T先生は目的を
もって夏期研に
参加したんだ
ね。



研修で学んだ
ことを授業に
生かすって素
敵ですね。



T先生は、「1学期は、学習内容をこなすことで精一杯で、生徒の驚きや疑問すら、授業に位置付けることができなかつた」と振り返り、もっと授業力を高めたいと願い、夏期宿泊研修にのぞみました。

自然事象に触れたとき、
生徒はどんなことを考えるのかな？

夏期宿泊研修での学びがヒントに！！

夏期宿泊研修では、同じ初任者の仲間と理科の授業について考え合いました。その中で、凸レンズで光を集める現象の驚きや疑問を生かして、学習問題を設定することの大切さに気付きました。



研修での学びを授業に生かして

BTB 溶液が黄色に変化した。
二酸化炭素が溶けている証拠だ。
酸性の性質があることも分かったね。

T先生は、「二酸化炭素の性質」について考える場面で、まず、水の入ったペットボトルに二酸化炭素を入れて振ると、ペットボトルがへこむ事象を提示します。「どうしてへこむの？」「水に二酸化炭素が溶けたのかな？」という驚きや疑問をもとに、二酸化炭素の性質について調べる必要があると考えた生徒の発言を受けて学習問題を設定しました。

「BTB 溶液を使ったらどうか」「石灰水も使えるかな」「リトマス試験紙でも試してみよう」と、既習事項を持ち寄りながら実験方法を決め出す生徒たち。グループで協力しながら自分たちで考えた実験を行い、終末場面では、二酸化炭素の性質について考察にまとめる生徒の姿がありました。



授業を振り返って・・・

T先生は、生徒の具体的な姿や思考の流れを辿りながら授業を振り返る中で、教材研究や素材研究の大切さを、改めて実感していました。

生徒の姿を思い浮かべながら、予備実験や板書計画、実験の準備を丁寧に行い、学習カードに毎時間コメントを書いて返却することを続けているT先生。初任研等で学んだことを授業に生かそうとするT先生。

「もっと授業力を高めたい！」とT先生は語ってくれました。

連載
「舎窓から」
知的好奇心が
つくる笑顔

中学校1年理科の「白い粉」の単元の授業を参観したときのこと。片付けのときに、それまで、薬さじやピンセットで慎重に扱っていた白い粉に、おもむろに手を伸ばして、指で触りだした女子生徒二人。触感の違いを確かめるように、2本の指で粒の感じを確かめていました。二人に「触りたかったの？」と尋ねると、「はい、触りたかったんです。」と言って、満面の笑みをこちらに向けてくれました。

「触りたい」という二人の行為は、もっとよく知りたいという知的好奇心の表れの一つだったのでしょ。

そういえば授業の終末、授業者のF先生がグラニュー糖の顕微鏡写真をモニターに映したとき、食い入るように見ていた二人の様子を思い出しました。二人の満面の笑みは、実際にサラサラとザラザラの違いを触って確かめ、学んだことと触覚をつなげて実感をもって納得し理解を深めた。そんな笑顔だったのだと思います。(文責:宮沢 和紀)



※写真は加工してあります

特集
県歌「信濃の国」
制定50周年③



長野県は豊かな自然をいかした産業が発展しました。
あなたの周りではどんな産業が盛んですか。
次回は、四番の意味を紹介します。

作成：長野県教育委員会教指導課・企画振興部広報県民課

県歌「信濃の国」制定50周年 ③

県歌に決まってから、今年でちょうど50年！
今回は、三番を紹介します。三番は、長野県の産業です。林業、漁業、農業、養蚕業。えつ、「蚕」って何か分からない」って。ぜひ、調べてみましょう。飼ってみましょう。

〈三番〉
木曾の谷には真木茂り
諏訪の湖には魚多し
民のかせぎも豊かにて
五穀の実らぬ里やある
しかのみならず桑とりて
蚕飼の業の打ちひらけ
細きよすがも軽からぬ
国の命を繋ぐなり

〈歌詞の意味〉
木曾谷にはヒノキが生いしげり、
諏訪湖では魚が多くとれます。
県民の産業も豊かに発展し、
県内どこでも穀物など農産物が豊かに収穫されます。
そればかりでなく、桑の葉をつみ取って育てる養蚕の技術が広がり、
一軒一軒の養蚕農家は小規模ながらも大事な仕事をしており、国の命運を支えているのです。



蚕を飼う小学生

* 学年だより等でこのまま紹介することも可能です。

子どもが育つ地域共育フォーラムが開催されます

生涯学習課

社会教育

詳細は9月上旬に郵送・送信される要項を参照し、お申し込みください。

日時	平成30年10月16日(火) 13時30分から16時40分まで					
会場	佐久市佐久平交流センター (佐久市佐久平駅南4-1)					
日程	13:10	13:30	13:40	15:00	15:15	16:35 16:40
	受付	開会式	講演(80分)	移動	分科会(80分)	閉会式

講演

講師：日本大学文理学部 教授 佐藤 晴雄 氏
演題：「地域とともにある学校づくり」の実現のために

分科会

- 第1 地域づくりとコミュニティスクール
真田の郷まちづくり推進会議 会長 宮下 俊哉さん
- 第2 地域と創るキャリア教育
佐久市立佐久平浅間小学校 教諭 前田 全俊さん
- 第3 子どもから大人まで楽しく遊んで地域がつながる
NPO法人あそび環境Museumアフタフ・バーバン北信越スタッフ
北信越事務所長 清水 洋幸さん
- 第4 信州型コミュニティスクールの取り組み
小諸市立芦原中学校 教頭 赤羽 勲夫さん
- 第5 学校支援コーディネーターとしてどう動くか
佐久市立野沢小学校学校支援コーディネーター 元吉 純子さん



社会人権教育

人権教育スキルアップ講座(7/26) が開催されました。

先生方や市町村の人権教育関係職員、PTAなどが現地を訪ねて学ぶ『人権教育スキルアップ講座』。今回は東御市東部人権啓発センターの協力により、同和問題とじっくり向き合う研修となりました。

午前は、興善寺さんにお祀りしてある差別戒名墓石と、加沢番所跡、馬捨場、集会所の見学、午後は、西藤千代子さんのご講演『部落差別と向き合って』と、部落差別解消推進法の読み合わせをしました。

参加した先生の感想

私は部落差別についてあまり聞いたことがなく、学習もしてきませんでした。今日は、現地での研修、啓発センターで課題と現状を学ぶことができ、講師の方の現実の話も大切で、聞いてよかったです。これからも部落差別について学んでいきたいです。

生涯スポーツ

総合型スポーツクラブ(9/7) ネットワークアクション が開催されました。

総合型スポーツクラブや学校の先生方、市町村のスポーツ担当職員などが一堂に会して、地域・学校と総合型クラブの連携を考えました。

内容は、新潟医療福祉大学教授西原康行さんの講演、県スポーツ課からの情報提供、それを受けての分散会を行いました。

講演を聞いての感想

- ・長野県の部活動も拠点校を作ったり、総合型クラブや行政と積極的に交流したりして行く必要を感じました。制度にとらわれることなく、「まず子どもを中心として考える」という言葉が印象的でした。

活発な意見が飛び交う分散会となりました！

